

1 【活動の趣旨】

ふるさとの人や自然、くらし、文化に愛着や誇りを育む機会にするために環境教育を核に地域協働合校事業を進めている。1月には、全校の学びの成果を展示物にまとめ、交流、発信する「渋川ESDミュージアム」を開催し、学校HPを利用し地域の方にも見ていただけるよう発信をしている。

2 【特徴的な活動内容】

- 5年生では、「滋賀の郷土料理学習」を核に郷土料理の魅力について考えた。琵琶湖の漁師を招き、琵琶湖の現状について学ぶとともに、琵琶湖の魚貝を使った郷土料理「湖魚の佃煮」や「アメノイオご飯」を試食した。また、日野町からは和菓子職人を講師に招き、丁稚羊羹作りを実施した。作った丁稚羊羹はパッキングしてもらい、家に持ち帰って家族に学んだことや魅力を伝えた上で、家族と共に味わった。
- 6年生では、「世界農業遺産」に認定された滋賀の農業・水産業を中心に学びを深めた。琵琶湖と共生してきた滋賀の農林水産業の魅力を知ることを通して、郷土への愛着や誇りを深めることをねらっている。郷土の農産物の中から「米」「野菜」「茶」をテーマに選び生産者と出会ったり、農産物を味わったりといった体験を数多く取り入れた。また、琵琶湖真珠の歴史や養殖の技術について学び、修学旅行では三重県の海の真珠の養殖業について学びを深めた。近江茶学習では、近江茶の歴史や産地の特徴について学び、ほうじ茶づくりを体験し、味わうことができた。

3 【実施に当たっての工夫】

地域に関わりのある物や、ゆかりのある方との調整を地域コーディネーターが中心となって行っている。また、地域コーディネーターと担任との連携を密に行うことにより、学校ニーズを把握した上で充実した活動を行うことができています。活動内容に関しては、見たり触れたり味わったりする体験的な活動を行うことで記憶に残るような活動にした。

4 【事業の成果】

すべての学年が地域の方に協力を得て子ども達の豊かな体験の場・学習の場を提供していただいている。活動を通して子どもたちは地域に対する愛着を育み、地域行事に積極的に参加する児童も多い。また、保護者や地域の方々にも地域のことを知っていただく機会となっている。テーマの通り、子どもも大人も活動に関わることで学び、ふれ合いを深めている。

5 【事業実施上の課題・今後の連携・協働活動実施に向けて】

子どもの実態や学習の内容に合わせて工夫の余地がある。めあてをしっかりと設定して見直しをもって取り組みたい。



【6年 近江茶の学習】



【5年 琵琶湖の漁師さんと湖魚】